

2018年8月24日 第3256回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 北村 会長

<斉 唱> 「それこそロータリー」

<ゲスト紹介> *公益財団法人三笠保存会 理事長 荒川 堯 一 様
*東ティモール民主共和国大使館 シニアスタッフ 中村 美砂子 様

<ビジター紹介> *Mr. Janio TILMAN (Dili Lafaek RC) District 9550

<会長報告> *第1グループ会長幹事会 報告

*ガバナー事務所より

・第4回インター・ローターアクト委員会/第4回地区 IAC アクターズミーティング
開催のご案内について

9月8日(土) 13:00~13:40 委員会

14:00~17:00 アクターズミーティング

於：アイクロス湘南

<委員長報告> *平松会計より2017-18年度収支会計報告

*高橋監事より2017-18年度会計監査報告

*ローターアクト委員会八巻委員長より

インターアクト委員会/アクターズミーティング懇親会 報告

<幹事報告> *例会終了後第2回理事役員会 開催

<出席報告> *出席委員会 加藤(淳) 委員より8月24日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数	欠席数	メイクアップ数	出席率
122名	110名	81名	29名	4名	77.27%

<ニコニコ報告>

・三 役 三笠保存会 理事長荒川堯一様、本日は卓話よろしくお願ひいたします。

・瀬戸、福西、杵渕、勝間、加藤、澤田、新倉、八巻、濱田、山下、吉田、梁井、猿丸、植田、鈴木、明野、小佐野、杉山、田邊、新倉、松本、菅野、若麻、藤村、前川、根岸、久保田、長尾、鈴木、平松、長坂、原田、高橋、三堀、町田、門井、齋藤 各会員

三笠保存会理事長 荒川堯一様、本日は卓話よろしくお願ひいたします。

・三 役 Mr. Janio Tilman, Dili Lafaek RC よりようこそいらっしゃいました。ごゆっくりお過ごしください。

・徳永 会員 Mr. Janio, welcome to our Rotary meeting.

・松本、鈴木 両会員 Mr. Janio TILMAN, welcome to our meeting. Would you please enjoy today.

・山下 会員 誕生月祝いとして

・波島、曾我 両会員 入会月祝いとして

・岡田、兼城、長尾、清水、若麻、佐久間 各会員

プログラム・広報・IT合同委員会「あら井」にて開催しました。北村会長はじめ三役の皆様、三宅さんにお越し頂き大変賑やかな会となりました。

・岩崎 会員 8月より社名を大神にしました。よろしくお願ひします。

・高橋 会員 関西の精鋭貫禄の大阪桐蔭、優勝おめでとう！

・小平、波島、上林、信木、岩瀬、高橋 各会員

東北の星、金足農業、準優勝おめでとう！

・前田、物井 両会員 すごいぞ IKEE RIKAKO! 金メダルへのタヘンだ!!

イケ〜イ！！

・山下、八巻 両会員 写真をいただいて。

<卓 話>

「日露戦争の原因と勝因」

三笠保存会理事長 荒川 堯 一 様

皆様、こんにちは。ただいまご紹介に預かりました荒川でございます。先程八巻さんからローターアクトの話がありました。実は今から40数年前、鹿児島県に赴任した際に5年間ローターアクトのリーダーをやっていたことがありました。その当時は青少年委員長という方がおられまして、八巻さんはその青少年委員長の立場なんだろうなと思いながら話を聞いておりました。非常に懐かしく、その時の青少年委員長は山本さんという方ですが、まだお付き合いがございます。ロータリークラブに対する親近感を改めて呼び戻したというところから話を始めたいと思います。



今、三笠保存会の理事長をやっているのですが、日頃思うところが2つあります。1つは三笠を永遠に残したい、国民のために残していきたいという思いが強くなっています。と申しますのはあの船は鉄なんです。従って錆びていきます。百十数年経ちましたが、平均の減り方は1年間で0.03mmずつ、100年で3mm、全部で15mmしかないので、単純計算すると、500年でなくなる計算になります。あと400年しかない。あと100年以内になんとかしないといけないとの思いが非常に強いです。あともう1つは、あの三笠の雄姿を見て、三笠よ、お前は一体何を後世に残したいんだという問いかけをします。勿論黙して何も語らないですが、私自身はあの日露戦争がどういう戦争で、俺たちがどうやって戦ったんだ、勝ったんだ、それを後世に残して欲しいと言っているのではないかとこのことを理解して、展示とかで示しております。それでもう1つ感じますことは、三笠は明治、日露戦争で終わっていいのかということです。やはりこの三笠というのは将来のために資するような何かのインスピレーションを与えていくべきではないかと感じながら、今保存会を運営している次第でございます。

今日は「日露戦争の原因と勝因」というテーマでこれから時間の許す限りお話しさせて頂きたいと思っております。

先ず、日露戦争の原因及び国際情勢です。1840年のアヘン戦争、清国の敗北、イギリス・列強の中国（上海・揚子江）蚕食がございました。1868年明治維新時には列強が世界の約8割を支配、イギリスは4割を植民地化支配致しました。こうした中、ロシアのアジア進出（南下政策：中国・極東方面）、長期的な領土拡大が始まり、日本を脅かすきっかけとなりました。1860年にはアロー戦争の仲介により、中国から沿海州及びウラジオストックを獲得し、翌年には対馬を占拠致しました。その後1891年にシベリア鉄道（軍事の補給線、戦争の準備として）建設工事が着工され1904年7月に完成、9月に開通されました。1895年には日清戦争が起これ、三国干渉により旅順を獲得し要塞化が進みました。また東清鉄道（満州の中心を通る鉄道）・南満州線の敷設権を獲得し、以降朝鮮の森林や鉱山採掘権の取得等が行われま

した。そして1900年に義和団の乱が起こり、各国撤兵後もロシア満州に大兵力を残駐させ事実上占領するに至ったわけです。その2年後の1902年、ロシアのアジア進出阻止を企図するイギリスと日英同盟が締結された後、1904年2月に日露戦争突入となった次第でございます。

次に日露両国の国力・軍事力の比較でございますが、一言で言うと大国と小国との戦いでした。具体的なロシア：日本の数字を述べると、人口は1.3億人：0.46億人、国家予算は20億円：2.5億円、国土は2,500万平方km：37万平方km、陸軍は350万人/310個師団：31.5万人/13個師団、海軍は80万トン/3個艦隊：22万トン/1個艦隊といった具合で圧倒的な差がありました。

こうした中、日本の情勢判断と判決の話に移りますが、情勢判断については、ロシアの南進意図は不変であり、時間稼ぎ・時間経過は日本にとって不利な中、ロシアに味方する国がなかったこと、またイギリスに対抗する国もなかったこと、ロシアは反政府勢力が活発だったことを背景として欧州からの陸軍増援は限定的であったこと、更にはシベリア鉄道は単線であるため輸送能力は限定的であったことから、明らかに開戦は不可避な状況でした。そして判決は、ロシア陸海軍の増援完了前に開戦したこと、アメリカによる仲介が入ったこと、また軍事的には局所優勢・各個に撃破（先ずは極東にいる陸軍・海軍の兵力をやっつけて、そしてやがて来るであろう欧州からの援軍を叩いていく軍事戦略）により、早期開戦・早期終結となりました。この戦略は確かに理論的には勝ち目があるものでしたが、1回負けたらそれでおしまいという非常に危うい軍事戦略でした。

最後に日露戦争の勝因ですが、何と言っても先ずは日英同盟が大きいです。この同盟がなかったらおそらく負けていたと思います。他国（フランスやドイツ）の参戦を抑止できたこと、日本の弱点（戦費の調達といった財政面、武器、情報等）が補完されたこと等があげられます。そして先程も申し上げましたように、早期開戦・早期終結です。ロシア軍増強完了前の開戦、開戦時の米国を介した終戦工作が功を奏したと思います。それから軍事的優越です。日露戦争は運が良かった、東郷さんのリーダーシップが凄かったということと理解されている方が多いと思いますが、実態はロシアとの戦力差というものは月とすっぽんでした。例えば日本海海戦で大勝利しましたが、そのファクター（砲戦力）を因数分解すると、発射速度、命中率、弾丸の威力等に分けられますが、これらが相乗的に重なって戦力というものが固まっていきます。その総合評価を計算すると、何と日本：ロシア＝27：1となり、日露砲戦力では圧倒的に日本海軍・連合艦隊の方が強かったわけです。この戦力により僅か30分間でバルチック艦隊を撃滅しました。それだけの戦力差をもって勝っている訳です。従いまして日露戦争というものは、先進力で勝ったわけではない、盤石な兵力整備と戦力の蓄積を瞬時にその大戦において爆発させたのです。日露戦争とはすなわち、日本人の英知、勇気、気合、そういうものが全て表現された戦争だったということです。我々がこの日露戦争というものを、しっかり語り継ぎ、後世に残していく責務があるのではないかと考える次第でございます。

<閉会・点鐘> 13:35 北村 会長

週報担当 増田 幸司